



貝森小学校地域懇談会ニュースでは、今後の貝森小学校のあり方についての話し合いの概要を、貝森小学校区内にお住いの皆様にお知らせします。

## 第 5 回貝森小学校地域懇談会

日時：平成 25 年 5 月 11 日(土) 10:00~12:15

場所：貝ヶ森市民センター 2 階 会議室

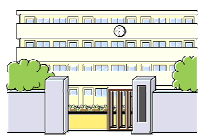
地域委員の人数に変更  
があったため、必要な規約  
の改正を行いました。

### ■意見交換 今後の貝森小のあり方について

前回の意見交換では、国見小と統合した場合を想定した意見として、「子どもたちが新しい環境に馴染むための配慮が必要」「子どもたちへのきめ細かな対応はどうなるのか」「通学路の安全対策を考える必要がある」といった、子どもたちの教育環境の変化に対する願いや不安についての意見が出されました。また、「結論を出すにあたっては、その理由を整理して、子どもたちや保護者、地域にきちんと伝えていかなければならない」といった、懇談会の結論の出し方についての意見が出されました。

今回の意見交換では、そういった教育環境の変化に対する願いや不安を、実現したり解消するためにどのような対応が考えられるか、また、懇談会の協議期間と結論の出し方などについて話し合いを行いました。

### ○主な話し合いの内容



#### 国見小と統合した場合の 教育環境の変化について

「ティームティーチング指導や、少人数での指導を行うことで、個別の対応はできる」といった、学習形態に関しての意見や、「通学路について不安はあるが、子どもたちや保護者の意識の持ち方で対応できる」といった、通学路に関しての意見が出されました。

また、「貝森小の母体は国見小で、馴染みのある学校なので不安は少ない」といった意見が出されました。

※3 ページに主な意見を掲載しています。



#### 協議期間と結論の 出し方について

「存続・統合それぞれのメリットやデメリットは、これまでの懇談会で十分に話し合っており、そろそろ意見をまとめていく時期ではないか」といった、協議期間に関しての意見や、「地域委員の意見を積み重ねることで会議の方向性が出てくる」「これまで様々な検討を重ねており、早急に意見を取りまとめて、適切な判断を行い、新しくスタートしたほうがいい」といった、結論の出し方に関しての意見が出されました。

※4 ページに主な意見を掲載しています。

## ○配付資料について

### ・資料「これまでに出了た意見と対応」

地域委員から出了た、国見小と統合した場合を想定した意見を、学校生活(子どもの教育)に関するものと、学校施設を利用した活動に関するものに分けて整理し、それぞれの意見について「こういった対応が考えられるのではないか」といった例をまとめました。

### ・参考資料「国見小学校の取り組み」

前回の意見交換で、国見小に関する意見が多く出了たので、現在の国見小の教育活動や保護者や地域の取り組みについてまとめました。

## 当日資料

### これまでに出了た意見と対応

※統合した場合のイメージに関する意見をまとめ、考えられる対応を載せております。

		意見(検討のポイント)	考えられる対応
学校生活 子どもの教育	教育環境	環境の変化に馴染めない子どもへの対応はどのようになるのか。	・子どもたちが新しい学校や友達に段階的に慣れるための事前の交流を行う。 ・貝森小の教職員の異動に配慮する。 ・スクールカウンセラーやさわやか相談員による相談体制を強化する。
		縦割り活動など、貝森小で行われてきた活動はどのように変わるのか。	貝森小と国見小のそれぞれの活動の良いところを取り入れた教育活動を計画する。
		子どもの数が多くなり、教室や校庭などが手狭になるのではないのか。	既存の施設の使い方を工夫する。
	集団活動と学習形態	先生一人あたりの子どもの数が増えると、子どもへの目配りや個別の対応が少なくなるのではないのか。	1 学級を二人の教員が指導するチームティーチング指導や、二つの小集団に分けて指導する少人数学習による、きめ細かな指導を行う。
	学区	学区が広がり、子どもの行動範囲も広がるので、今よりも目配りが必要になるのではないのか。	現在、保護者・地域の方々により行われている学区内の見守り体制や通学時における安全対策を強化する。
学校施設を利用した活動	通学先と通学路	通学時間帯の市民センター付近の交差点や福祉大駅前の車の交通量の多さと、福祉大生通学による混雑への何らかの対策が必要ではないのか。	
	・スポーツ開放 ・指定避難所	学校でなくなった後、施設がどうなるか心配である。有効に使う方法をみんなで考えていきたい。  貝森小の避難所としての役割はどうなるのか。	地域の皆様と十分に話し合うとともに、関係部局と協議を行いながら、活用方策を検討していく。  避難所のあり方については、市民局と区役所が中心となり、地域の皆様と順次協議を行っていく。

## 当日参考資料「国見小学校の取り組み」より抜粋

### ○集団活動と学習形態

- ・個に応じた指導計画(少人数指導・個別指導)に基づいて、全学年で少人数指導担当者と学級担任が指導体制を組み、算数を中心に少人数指導、チームティーチング指導、個別指導を実施している。
- ・教務主任や副教務主任が高学年の専科指導や個別指導を行っている。

### ○通学先と通学路

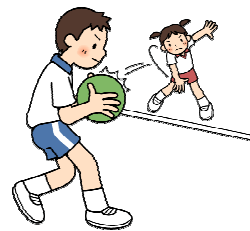
- ・「学校ボランティア防犯巡視員(登録者約160名)」が登下校時間帯に、通学路や防犯上危険と思われる箇所等の巡視活動を行っている。
- ・保護者が各地区毎に当番を決め、登下校時間帯に通学路や地区の巡視を行っている。

## 国見小と統合した場合の教育環境の変化について

### 教育環境

○統合前の事前の交流内容や期間はどのようなものなのか。

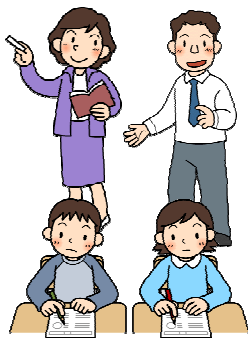
⇒例えば、お互いのクラブ活動を見学したり、校外学習に一緒に出かけたりといったものになります。回数を重ねて子どもたちが慣れていくために、4月から3月までの1年間を通して行うのが理想です。(教育委員会)



### 集団活動と学習形態

○チームティーチング指導はどのくらいの頻度で行うのか。年間を通じて継続して行うのは難しいと思う。

⇒各学校でチームティーチング指導や少人数指導をする際は、年度はじめに学年ごとに計画を立て、1年間継続的に行っています。低学年では、一つの教室に二人の先生が入り、役割を分担して指導するチームティーチングの形が多く、高学年では、1学級を二つのグループ、30人学級であれば15人ずつに分けて、それぞれのグループを一人の先生が指導する少人数指導の形が多くなっています。(教育委員会)



○集団の中で自分をどう高めていけるかということが大事で、国見小の取り組みを見ると、チームティーチング指導があり、ある程度の人数での指導と少人数での指導の両方が受けられると思う。また、複数の先生がかかわることで、子どもたちへの個別の対応も期待できる。

### 通学先と通学路

○市民センター前の交差点や、福祉大駅付近は交通量が多く、通学路になるとしたら不安である。

⇒大学生の通学に伴う混雑については、小学生の通学時間帯とは差があり、影響は少ないかと思います。車の交通量の多さについては、例えば、市民センター前の交差点を渡って福祉大駅側ではなく、仙台高校側を通ることで安全を確保する、といった対応が考えられます。現在、付近を通って国見小に通学している児童がいますが、地域の方々がボランティアで登下校時の見守りを行っています。(教育委員会)



○通学路の不安は多いと思うが、自分が国見小に通学していた頃は、子どもも保護者も自分たちで交通安全に気をつけてきたと思う。それぞれが意識を持っていれば、対応できるのではないかと思います。

### その他の意見

○貝ヶ森地域では宅地造成が始まり、今後も発展していくので、存続・統合の問題は結論を急がず、慎重に考えてほしい。

○貝森小は国見小から分離新設され、保護者の中には国見小を卒業して馴染みのある方もいて、不安は少ないのではないかと。



○貝森小から第一中に進学する場合、人数のギャップによる戸惑いが大きいのではないかと。国見小であればある程度の人数がいるので、それほどでもないかと思う。

## 協議期間と結論の出し方について

### 協議期間

- 1年間懇談会での協議を重ねて、予定された議論は一通り尽されたのではないか。
- 存続した場合、統合した場合を想定した議論を重ねて、それぞれのメリット・デメリットは出尽くしたので、そろそろ意見をまとめていく時期ではないか。
- 次回の意見交換で、これまでの議論を踏まえて、結論について方向性を集約していくと良い。



### 結論の出し方

- 地域委員が、責任を持って結論を出していくことを基本にしたほうが良い。そのための意見の取りまとめ方を確認したい。例えば一人ひとり投票を行うのか、あるいは賛成、反対とそれぞれの意見を言うのか。  
⇒懇談会規約では、協議期間は地域委員の協議で決めていただくことになっており、意見の取りまとめ方についても、地域委員で協議していただくことになります。(教育委員会)
- 仮に統合となった場合、教育委員会では、いつ頃行うという目安を持っているのか。未就学の子どもたちの保護者の中には、貝森小と国見小のどちらに行くことになるのか不安を抱いている方がいる。  
⇒統合となった場合は、両校の子どもたちの事前の交流や、PTA や地域団体間の調整など、様々な準備を行う必要があります。必要とされた準備が整えば早ければ来年4月という時期も可能かとは思いますが、実際の統合例である泉松陵小の場合に、子どもたちの事前の交流を4月からの1年間を通して行ったことを考えますと、27年4月という時期がひとつの目安になるかと思います。(教育委員会)
- 紙に書いて決を採るのは、こういう会議では馴染まないのではないかと。時間はかかっても、一人ひとりの意見を積み重ねていくことによって、それぞれの考えが深まり、会議の方向性が出てくると思う。
- 様々な意見が出ることによって、それぞれの考え方が変わることもあるのではないかと。変わったら変わったで良いと思う。また、自分とは違った考え方に気づき、より客観的に話をするができるようになる。
- 震災の影響により、学校の問題で大変な苦労をされている地域が身近にある今、教育環境の変化にも対応しやすい状況になっていると思う。私たちは、貝ヶ森の子どもたちが安心して教育を受けられるようにしたい、という思いで懇談会に臨み、今日まで様々な検討を重ねてきており、早急に意見を取りまとめて、適切な判断を行い、新しくスタートしたほうが良いのではないかとと思う。

#### 【第6回貝森小学校地域懇談会の開催日程】

日 時：平成25年6月22日（土）10時から  
場 所：貝ヶ森市民センター 2階 会議室  
テーマ：今後の貝森小のあり方について

事務局：仙台市教育委員会事務局  
学校規模適正化推進室  
電 話：214-8432 FAX:264-4428  
Eメール：kyo019031@city.sendai.jp

取組み内容はホームページでもご覧いただけます

仙台市教育委員会 一定規模確保

検索